

ONE LOVEオンライン里親会主催
第12回里親セミナー講演会資料
2022/11/26（土）

特定非営利活動法人おいた子ども支援ネット
理事長 矢野茂生

若者が育ちやすい社会づくり

～自立支援をめぐる社会デザイン～

なないろの未来へ。



矢野 茂生 (55) ヤノシゲキ
【特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット 理事長】

大学卒業後、中学校教員として9年間公立中学校に勤務後、県立の児童自立支援施設に赴任。13年間児童自立支援専門員として勤務。児童自立支援施設で直面する「こどもや家族の問題」に社会的な課題を感じ、仕事をしながら40歳から大分大学大学院に進学。「困難や生きづらさを抱えるこどもや家族」について研究を重ねる。

2013年より大分県においても。全国的な児童虐待の増加等から、

「緊急避難を要するこどもへの支援＝こどもシェルター構想」

について＜司法－行政－福祉＞の連携により協議会を設置。

2014年から設立準備委員長を務め、自らその運営責任者に就任。

平成27年3月に大分県を退職し、同年4月より「特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット」を創業。

「社会に拓かれたこども家庭福祉事業」の展開をめざす法人。（役員11名：職員47名体制）

2022年度は創業8期目にあたる。

児童自立支援施設でのこどもたち
との暮らしが私の「原風景」です



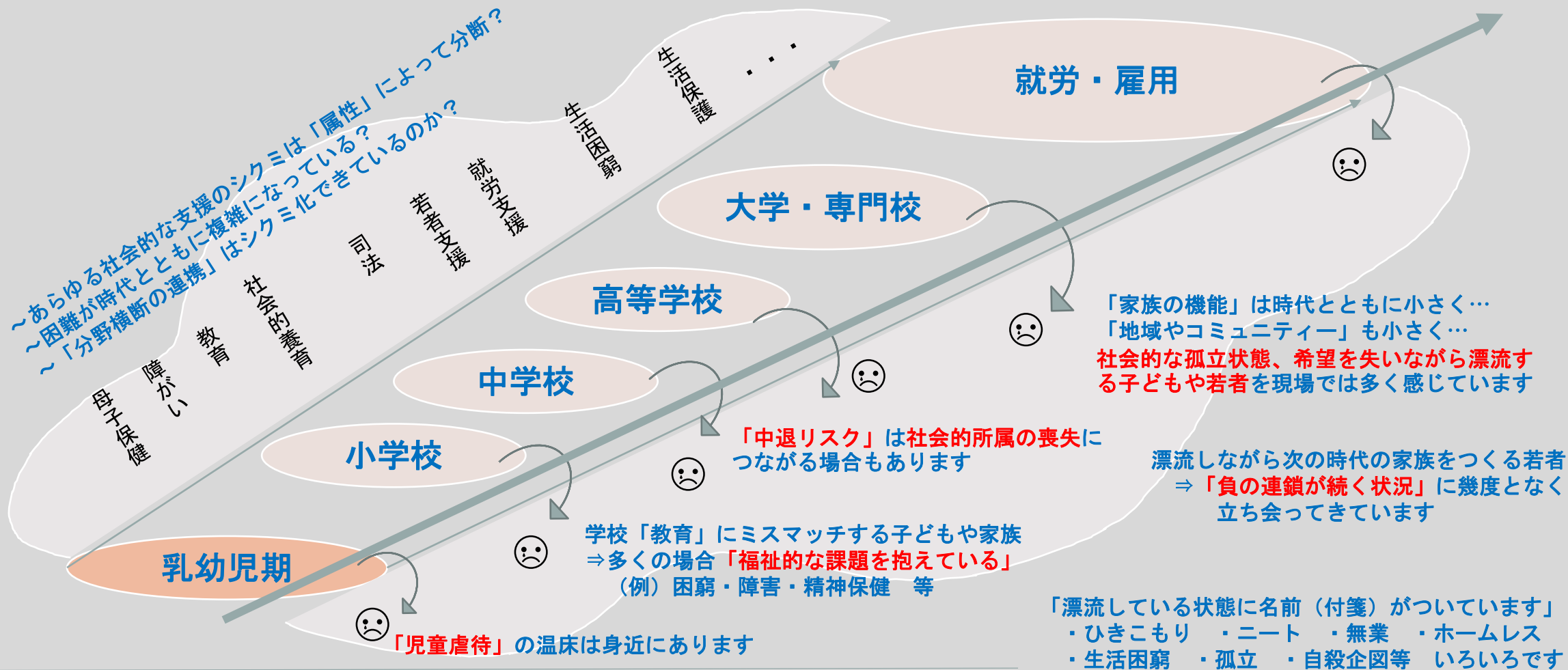
子どもや若者の
ご家族の
ライフコースを長く応援できる法人を創る



上流で何が起きてたどり着くのか。全体のデザインはどのようになっているのか

司法支援や福祉支援は多くの場合
「下流に流れ着いた方々」に対応する仕組み

漂流するこども・若者 「子ども・若者支援現場から見える風景」



* 「漂流」という表現：様々なステージで不適応もしくはミスマッチをおこし、個人や家族では解決、回復できにくい状態にある方々をイメージしています

- 子どもの頃から何らかの生きづらさがあったが、適切なケアを受けられなかった
- 適切なケアを受けられなかった理由を探ると、生育した家庭環境に問題があった
- 親が不在だった、親がいても不適切な養育をしていた、親自身にも何らかの病気や障がいがあった
- 親が子の生きづらさに気づけなかった、あるいは気づいていても対応できなかった
- 母子保健、児童福祉、学校教育、精神保健など、支援制度につながる力が弱い、制度に対する拒否が強い（妙な自己責任論がある）
- 制度に対する拒否の強さは、制度の内側にいる人への否定的感情・差別意識と比例する
- 障がいの可能性を否定しながら生きてきた期間が長いほど、障がい者に対する否定的感情や差別感情が大きくなっている
- IQ70～80のボーダー層あるいは発達障がいの特性強めで、困難はあるが診断も手帳もなく、制度に守られることもなく権利侵害しまくられた人生を送っている
- 生来の知的・発達障がい者がストレスフルな人生を送った結果、後天的な精神障がい者となった
- 学校や支援機関などに相談歴があるが上手くつながらなかった経験があり、制度なんて何の役にも立たないという確信がある
- ダメージを受け続けて、いよいよ食い詰めて、イヤイヤながら相談する大っ嫌いな窓口（児相など）へ半ば強制的に、場合によっては必死に行く状況なので、関係構築が難しい
- 社会的養護～矯正施設～生活保護～矯正施設～生活保護（以下繰り返し）という人生を送っている
- 上記のような人が親となり、現在も再生産が続いている

などなど…

●これまでかかわってきた方々を言葉に出してみると↑の感じでした。「ひきこもり」や「生活困窮者」、「社会的養育環境で暮らす、または退所した方々」もきっとその同様の背景がある方もいらっしゃるのではないかと思います。彼らの人生を知れば知るほど、「こうなるしかなかったんだな」と思うと同時に、同じことを繰り返すのは、本人・支援者・社会にとって大きな損失だとも思っています。

●課題解決や治療（時には必要）ではなく、大切なことは「得意と苦手を知ること」「合理的な配慮を求められるようになること」へのサポートだと思います。自然な形で自己覚知、自己理解に至るために必要なサポートはどのようなことか。それゆえ川の上流から同一法人でサポートできるためのしくみと機能づくりをやっていこうと。

特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット（2014年11月設立：2015年4月事業開始）

事業運営理念

「すべての子どもたちに明るい未来を！」

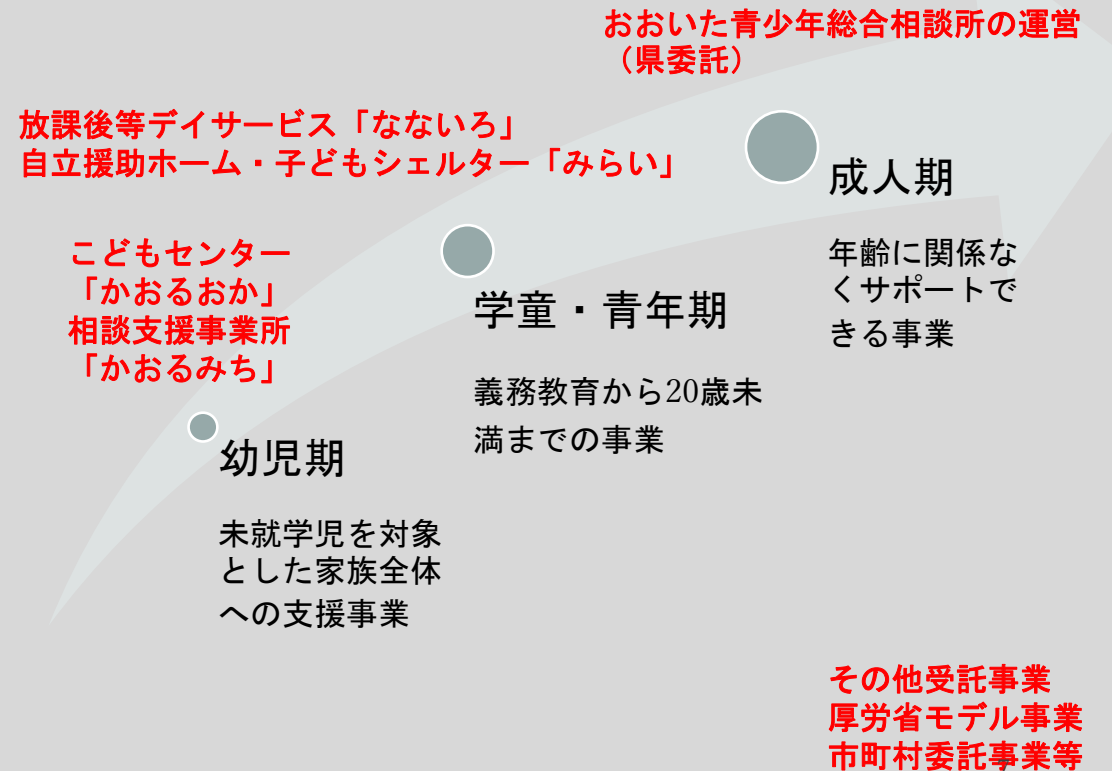


こども支援ネットのはじまりは「居場所のない子どもたちに安心な居場所を提供する」ということからでした。居場所を失った子どもたちへの対応、そして居場所をなくすことがないように、家族や地域への支援。

「福祉サービス」はヒトの困りごとから始まりました。また、現代の困りごとは非常に複雑に重層的になっており（地続きとかいう表現を使っています）、ひとつの分野や単一機関では解決しえません。

おおいた子ども支援ネットは、福祉サービスの根幹を大切にしながらも時代の変化に応じた「柔軟な福祉サービスの構築」に向け動いています。「柔軟かく変化できる」そんな法人の強みを心がけています。

事業型NPOとして：「ライフコースをサポートできる」法人として



こどもセンター かおるおか
相談支援事業所 かおるみち

放課後等デイサービスなないろ

自立援助ホーム・子どもシェルターみらい



こども
事業部

なないろの未来へ。

<http://www.oita-kodomosien777.net/>



こどもや家族の「育ち」にあわせて、柔軟に長くサポートできる福祉サービス体系の構築をめざしています

○理事・監事 弁護士・児童精神科医
児童福祉施設理事長・学識者
行政等経験者・教員経験者等
(役員 11名)

○職員体制
常勤職員 32名
非常勤 15名
(職員 47名)

ソーシャル
事業部

おおいた青少年総合相談所
おおいた子ども・若者総合相談センター
おおいたひきこもり地域支援センター
児童アフターケアセンターおおいた

杵築市委託事業：きつきプロジェクト

各種モデル事業・助成事業 等

おおいた青少年総合相談所について

ちいさな一歩を たしかに、つなぐ

人と会う自信がない。
人間関係が苦手。
生活や仕事があまくない。
働くことに自信がもてない。などなど
それはきっと誰でも抱えることです。

ひとりで、家族だけで抱えこまずに「まず相談」。

ここは、みなさんの悩みを共に考え、

その解決に向けた相談を行なっています。

「一歩!」
あなたの今に寄り添いながら…
さあ、一歩だけ前へ。



おおいた青少年総合相談所

おおいた青少年総合相談所は、不登校やひきこもり、就労等の社会的自立に困難な悩みを抱える方々やそのご家族をサポートするため、大分県が設置している公共相談所です。弁護士による法律相談も定期的に行っています。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

1F/2F

おおいた子ども・若者総合相談センター おおいたひきこもり地域支援センター

子ども・若者の不登校・ニートなど諸問題のご相談（対象～39歳）、ひきこもりに関する相談（年齢制限なし）窓口です。状況に応じて適切な支援ができる機関等のご紹介や、当事者およびそのご家族に対するサポートを行います。



相談時間 月曜～土曜日 9:30～17:30

TEL 097-534-4650 (総合受付)

MAIL info@oita-konet.net

不登校・ひきこもり相談ダイヤル開設 専門相談員が対応いたします。お気軽にご相談ください。

TEL 097-579-6177 相談時間 月曜～土曜日 10:00～15:00

※令和2年より「青少年自立支援センター」は「おおいた子ども・若者総合相談センター」「おおいたひきこもり地域支援センター」と名称変更しました。

1F/2F

児童アフターケアセンターおおいた

児童養護施設や里親家庭を巣立った方々に対し、日々の生活の困りごとや仕事について一緒に考え、一人ひとりの状況に応じてサポートしていきます。



相談時間 月曜～土曜日 9:30～17:30

TEL 097-574-8899

MAIL info@oita-konet.net

3F

おおいた地域若者サポートステーション

仕事に就いておらず家事も通学もしていない15歳～49歳の方へ、個別相談を中心に就労に向けたプログラムや職場体験など一人ひとりにあった「働くためのサポート」を行っています。



相談時間 月曜～金曜日 9:30～17:00

TEL 097-533-2622

MAIL soudan@oita-ss.com

大分県の子どもや若者、その家族がかかえる問題をサポートするポータルサイト

「このゆびとまれ」 OPEN!

#引きこもり #外に出る #誰にも話せない #変わりたい #働くこと #学校のこと

「ちょっと困ったことがある…」

それは子どものことだったり、ご家族のことだったり、自分自身が抱える悩みだったり…

でも「相談する」のはとても勇気がいること。「どこに行けばいいんだろう」、「どんな人がいるんだろう」わからないから不安になる、ためらってしまう。

「このゆびとまれ」は、そんな皆さんを支えるポータルサイト。大分県ではみなさんの困りごとに寄り添える情報をここに集めました。「私たちのまちにはどんな場所が、どんな窓口があるの?」「県内にはどんな取り組みがあるの?」

あなたの悩みや疑問にしっかりと寄り添えるサイトを一緒に作っていきます。

<https://konoyubi-tomare.jp>

R3年度相談援助データ

子ども・若者総合相談センター／ひきこもり地域支援センター

令和3年度総件数
6,375件

直接相談
2,423件

関係機関支援
1,877件

市町村支援
2,075件

【職員体制等】

- ・センター長 1
- ・電話相談員 2
- ・専門相談員 2
- ・訪問支援員 2
- ・自立支援員 1
- ・市町村支援員 2

- ・開所日：毎週月～土
- ・大分県子ども・若者支援地域協議会
- ・多職種連携会議の設置
- ・大分県生活環境部
私学振興・青少年支援課

児童アフターケアセンターおおいた

令和3年度総件数
3,397件

生活相談：2,365件

経済的相談：145件

就労相談：786件

その他相談：101件

住まいや居住など

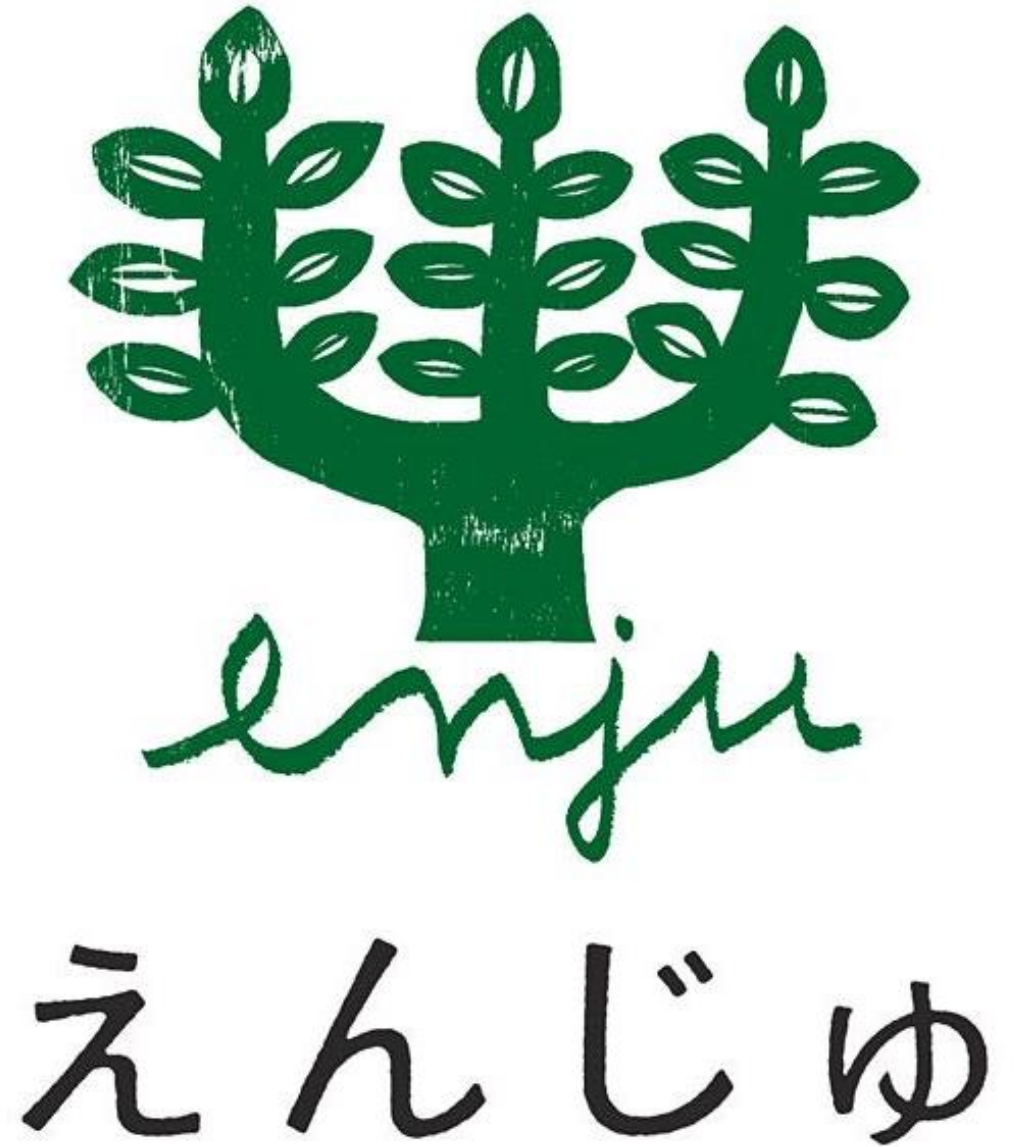
【職員体制等】

- ・自立支援コーディネーター 1
- ・生活相談員 2

- ・開所日：毎週月～金
(状況に応じて土曜開所もあり)
- ・大分県児童養護施設協議会
大分県里親会との連携
- ・職業指導員連絡会への参加
- ・大分県福祉保健部こども家庭支援課

アフターケア事業（社会的養護自立支援事業）に
取り組む全国の仲間が集まって2018年6月に設立。
現在、北海道から沖縄まで34団体が加盟。

[アフターケア事業全国ネットワーク「えんじゅ」\(enjunet.org\)](http://enjunet.org)

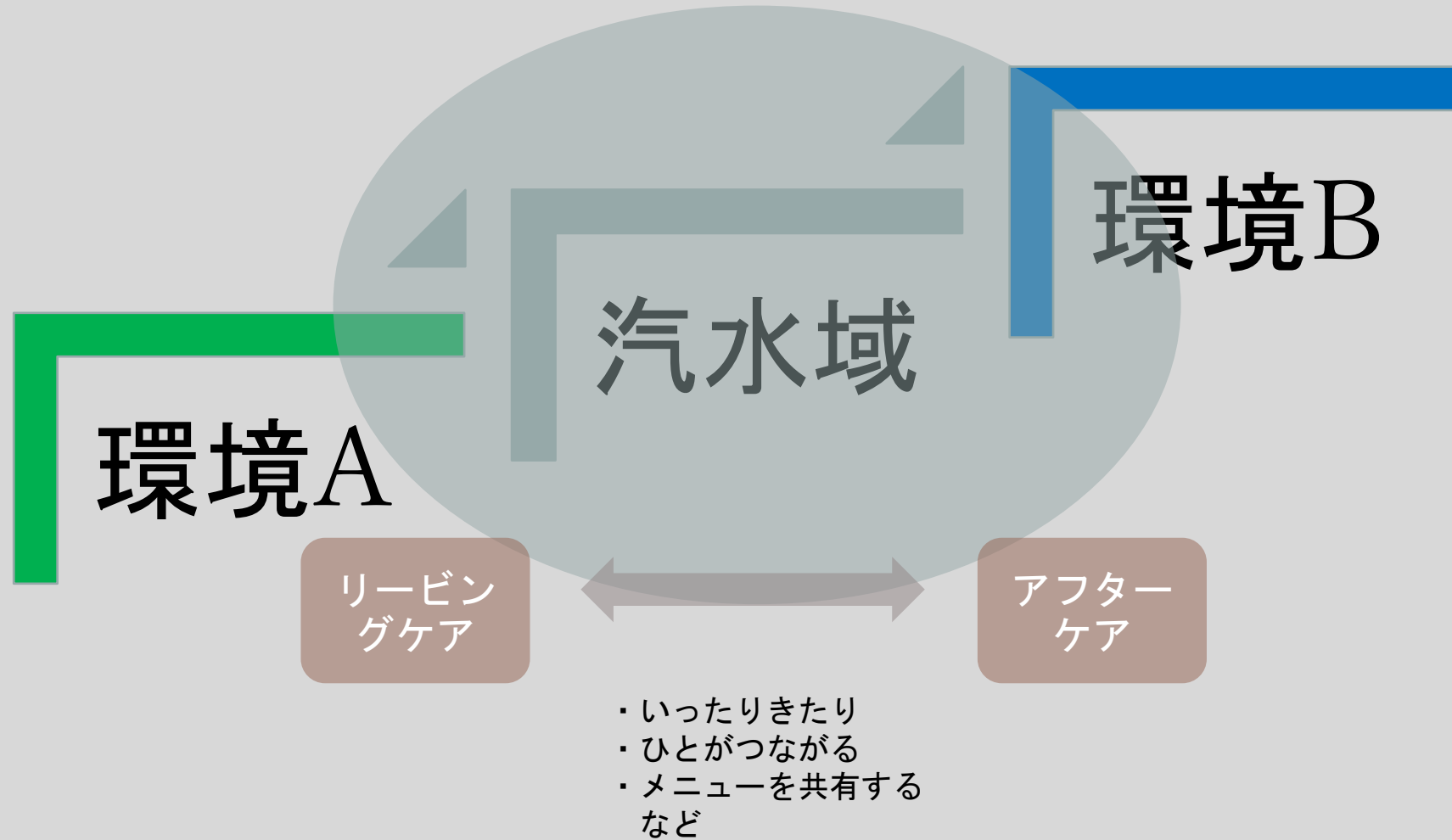


- ①意志（想い）や意見の表明ができる
- ②選択肢がある
- ③経験（体感できる体験できる）
- ④ステップが踏める
- ⑤いったりきたりできる
- ⑥仲間がいる

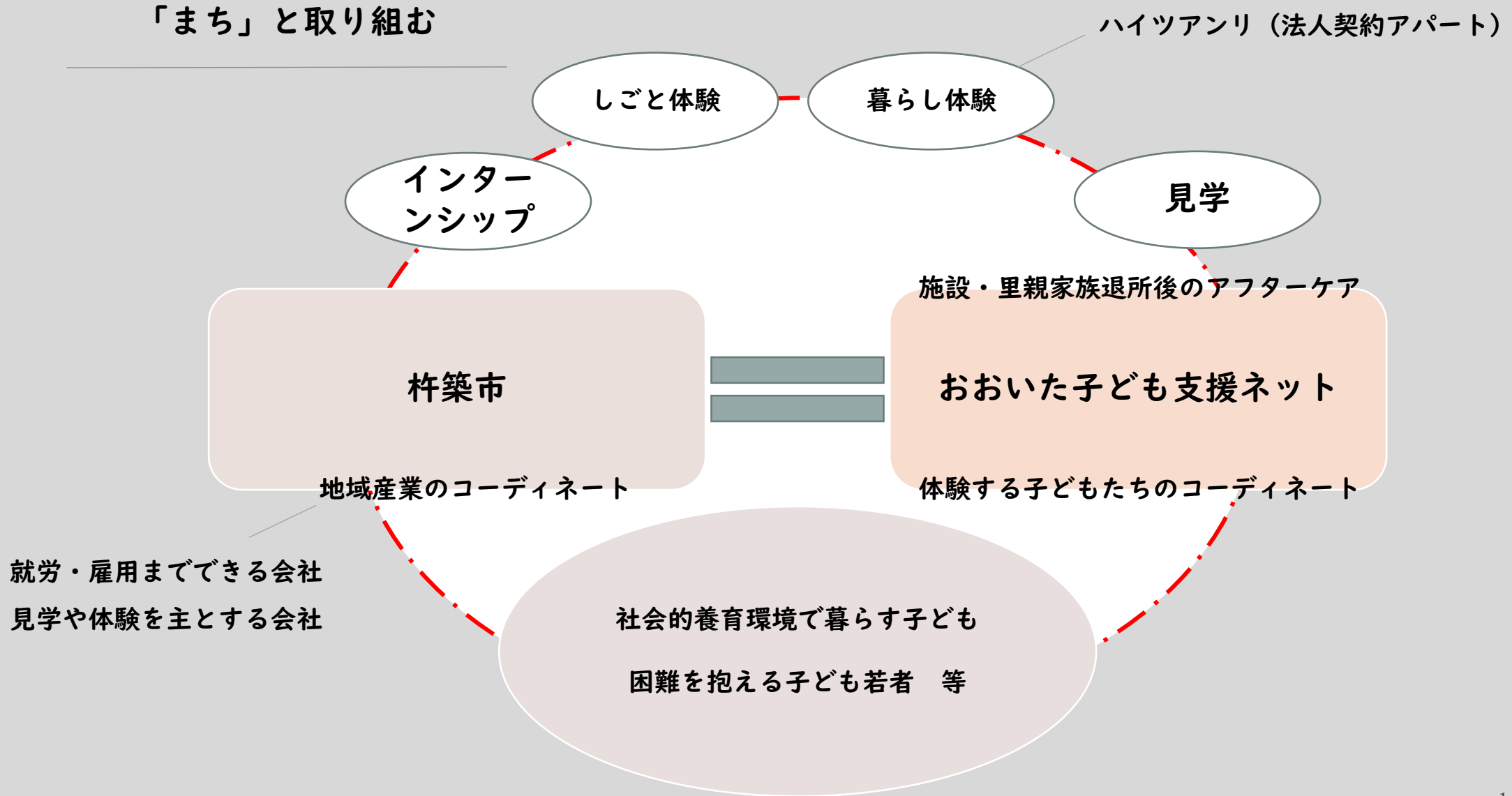
★それらに伴走できる「人」がいる

★それらを大切にしてくれる「人」がいる

自立というか
「育ち」に
必要なこと



「まち」と取り組む



育て 農業の担い手

児童養護施設から初の就農者



「きつきプロジェクト」で農業体験をする児童養護施設の中高生ら。杵築市柿畑の太分サンヨーファーム

【杵築】杵築市は市内の児童養護施設で暮らす中高生に将来の進路として農業を考へてもらう農産物振興事業「きつきプロジェクト」を展開している。毎年、農家での農業体験に招くなどし、昨春は参加者から初めて就農者が誕生した。施設退所後の安定した就職先として市内の事業所を紹介し、地域産業の担い手の確保を目指す。

プロジェクトは2016年度に始まった。県内九つの児童養護施設の希望者が、週回程度、これまでに延べ153人が参加した。児童養護施設で暮らすのは法律で18歳(高校卒業後)まで、施設退所者の自立支援に取り組むNPO法人「おおいの子」も支援ネットワーク(大分市)によると、全国的に施設退所者の1年以内の就職率は同年代平均に比べ高い傾向にあるという。同法人は「入所時に比べ、職員ら周囲の人の支援が届きにくくなるのが一因」と話す。

市内は農業者の高齢化が進み、農業法人を含めて人手不足が課題。市は農業に関心を持ってもらい、早いうちから将来の就職先の人間関係を築けるようにしようと取り組みを始めた。就農1号となった石川輝さん(19)は中学3年から毎年、参加していた。別府市

杵築市 体験後に事業所紹介へ

内の児童養護施設を退所後、昨年4月に農業生産法人太分サンヨーファーム(柿畑)に就職。市内で1人暮らしをし、ユズやウメの収穫や世話を担当する。「体験に参加したことで仕事の内容をイメージしやすくなり、自分が向いているかどうか確認できた」。同社の田代高美農場長(66)は「はじめに頑張っている。将来は指導的な立場に成長してもらえれば」と期待する。

児童養護施設からは「体験では普段の生活で見られない子どもの姿や成長を感じられる」という声もある。これまで就職者は1人にとどまり、地域産業の後継者確保という面では成果はこれからは市福祉事務所は「今後には市内の産業者を含めて体験先を広げ、就職先の選択肢を増やしていきたい」と話している。

(佐藤由佳)



杵築市長

Aさん

農場長さん

当事者が考える「つながりのデザイン」とはどのようなものだろうか？

「CONET」(connect&network)プロジェクト
という社会実験事業を実施しています。



- ・ 3名のケアリーバー
- ・ 1名は常勤雇用型 2名は非常勤雇用型
- ・ 法人+日本財団の後方支援

ケアリーバー Care Leaver

||

社会的養育環境を巣立った人

18歳になり
突然社会に放たれるわたしたちは
仕事や学生生活がうまくいかなかったり
人間関係に悩んだりすることが多い
ちょっとしたことが社会生活の大きな壁になることも少なくない

でも
「相談する」というのはとても勇気があること
言にくいこと、伝えにくいこともたくさんある
そんなわたしたちが気楽に声をかけあい
おたがいにサポートしあえる環境をつくりたい

CONETプロジェクトは
そんな「つながり」をつくるための活動です
わたしたちらしくつながる「つながりのデザイン」を
描いていきましょう!

大分県内のケアリーバーたちのつながりと
ピアサポートの機能をデザインする

CONET

コネット




CONETとは?

Connect + Network

児童養護施設や里親家庭を
巣立った若者(ケアリーバー)どうしの
つながりをつくる活動をしています

活動拠点は**大分県大分市**です

CONETにあなたのチカラをかしてください



これまでの活動

- *県内児童養護施設訪問
- *ケアリーバーのおしゃべり会
- *里親会への活動紹介
- *入所児童向けSST企画運営
- *ラジオ出演
- *オレンジリボン運動

これからも
いろいろなイベントを
予定しています!

...などなど



CONETのつながりかた

友だちを増やしたい

お話を聞いてほしい

だれかの役に立ちたい

手伝ってほしい

教えてほしい

いっしょに活動したい

きっかけは
何でもOK!

Instagramに
DMを送ってください!

[instagram.com/conet_oita/](https://www.instagram.com/conet_oita/)



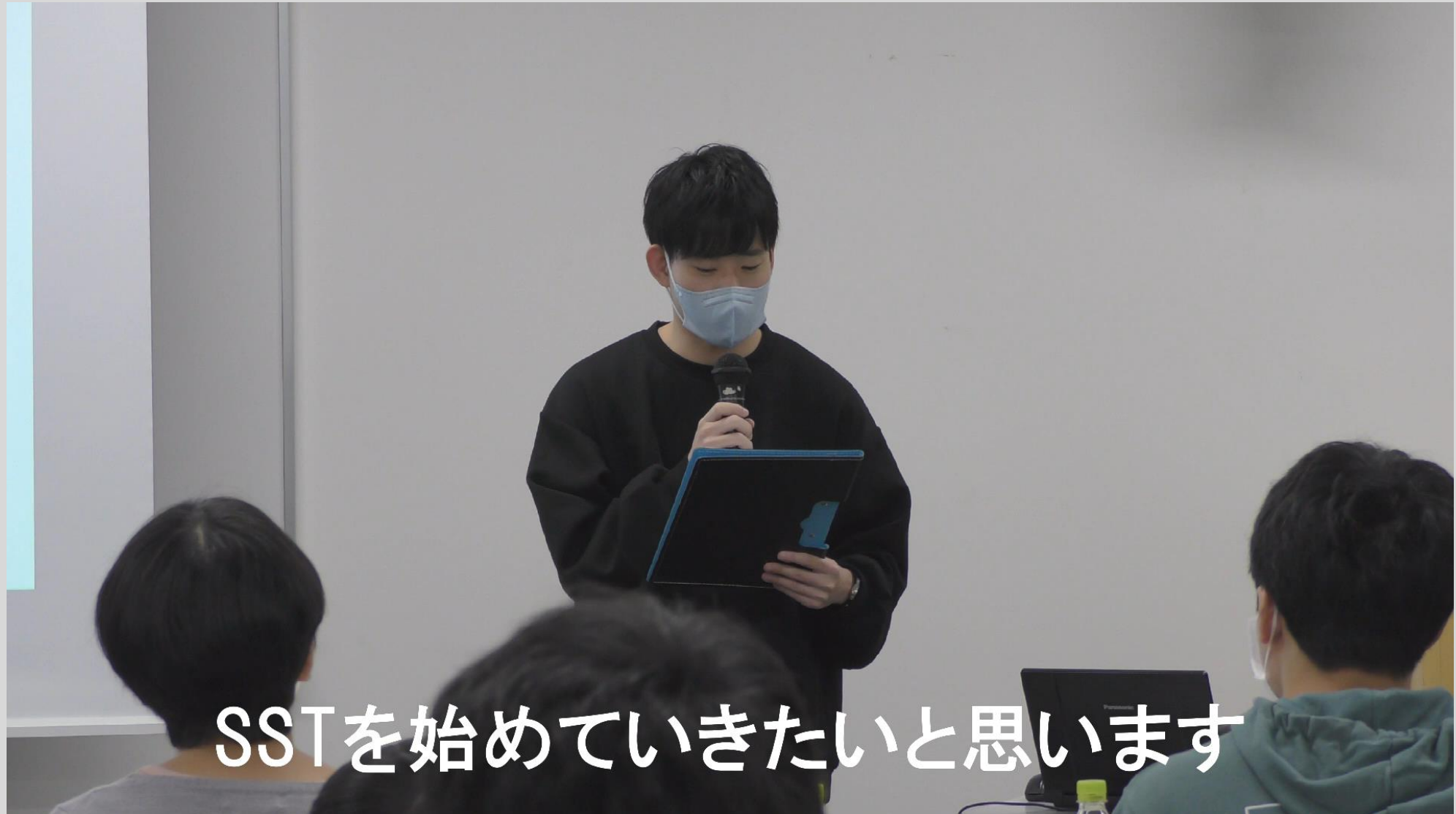
CONET PROJECT
つながりと支えあいのデザイン



CONET
コアチーム
活動写真



実際の動画（1分間のダイジェスト版）



SSTを始めたいと思います

私たちの大切にしている思い

すべての子どもたちに明るい未来を！



当事者の思い

～想いや願いづくり～
可能性を中核にした伴走を

里親さんや社会の願い

～語り合えるシクミづくり～
であることを大切に

リアルな取り組みに

～事業づくり～
何度でもREデザインする
社会と手をつなぐ

貴重なご縁をありがとうございました

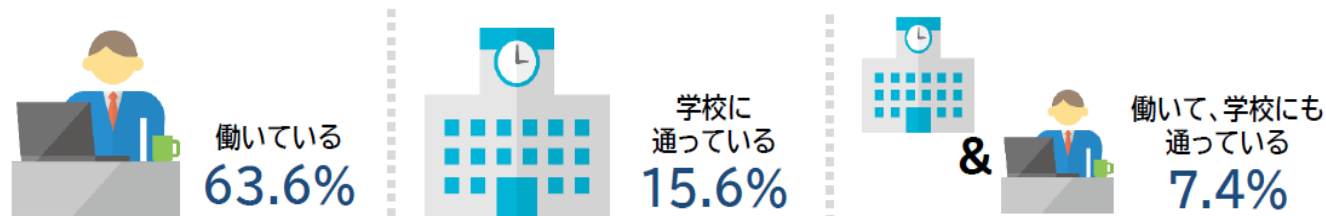
2,980人の
リアルな声！

施設や里親家庭等で生活していた人の 生活やサポートに関するアンケート調査結果

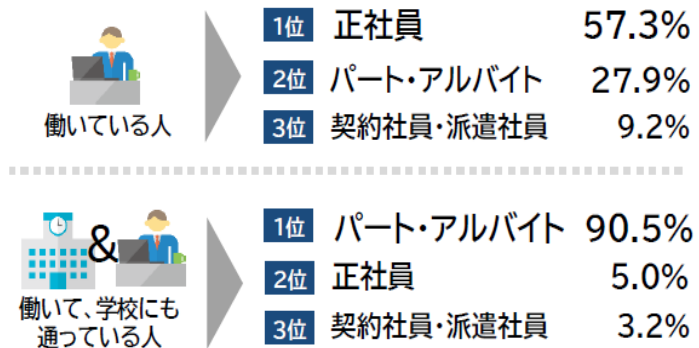
国、自治体、児童養護施設等の職員・里親家庭の方々にご協力いただき、施設や里親家庭等で生活していた方に、これまでの生活や今の状況をおたずねするアンケート調査を行いました(対象者:2015年4月～2020年3月に中学卒業以降で施設等を退所した人)。施設や里親家庭等で生活していた人が、今、どのような生活をおくっているのか、イメージできるデータをピックアップして紹介します。

仕事・学校のこと

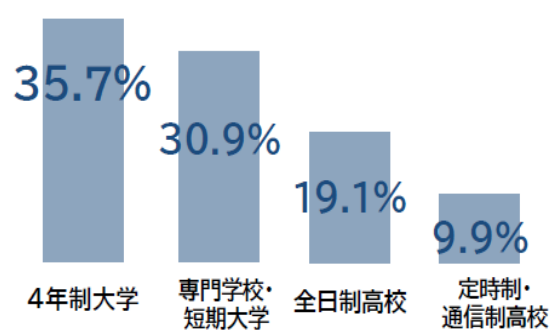
■ 今の仕事や登校の状況は？



■ どんな働き方をしている？(TOP3)

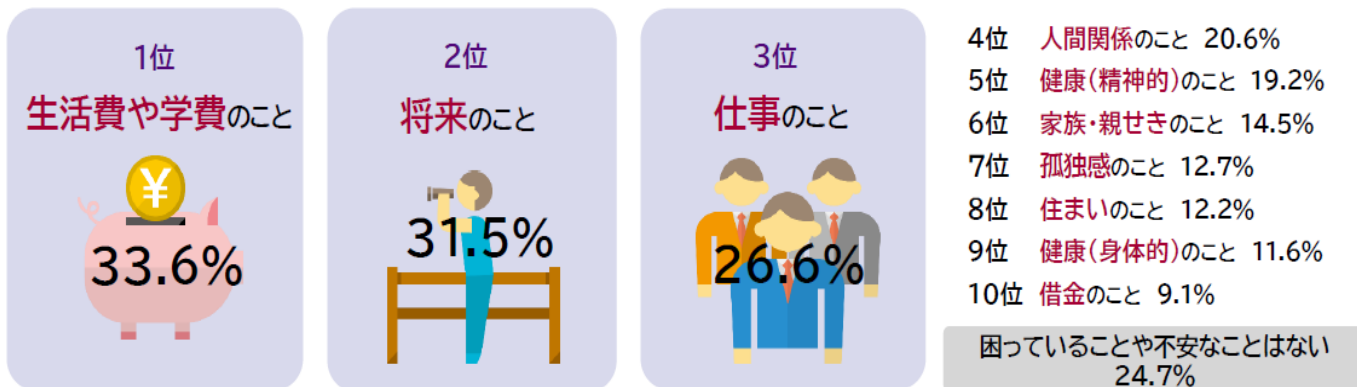


■ どんな学校に通っている？



不安なことやサポートのこと

■今の暮らしで困っていること、不安なこと、心配なことは何？(TOP10)



■実際に寄せられた声 ※一部抜粋

どんなに働いてもアルバイトだから、貰える給料は低いから貯金も出来ないし、身体は疲れるし今後が不安

コロナで収入が減り、奨学金を払っていきけるか不安です

お金の出費が多く、学費が払えるか心配
親との接し方、関わり方が分からない

今後のキャリアをどう積んでいったらいいか分からない。もう一度やり直したり、チャンスがほしい

出産をするにあたって、子供の頃に受けた態度を、自分の子供にしてしまうのではないかと不安があります

周りに相談する人が少なく、誰を頼ればいいのか分からない。頼れる人がいても頼り方が分からない

■今後利用したいサポートやサービスの内容は？(TOP3)

※「困っていることや不安なことはない」を回答した人を除く



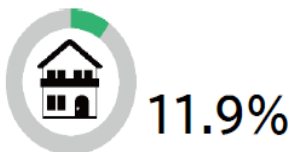
住まいや家計のこと

■ どんなところに住んでいる？(TOP3)

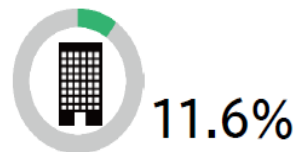
1位 民間賃貸住宅



2位 親の家



3位 会社や学校の寮



■ 誰と一緒に生活している？(TOP5)

ひとり暮らし 51.7%

親 21.3%

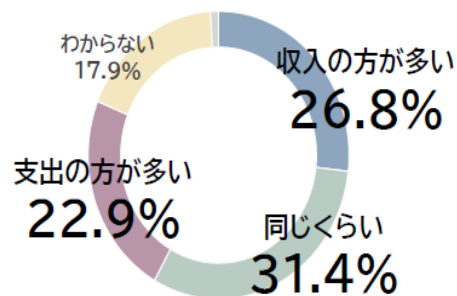
交際中の人・結婚相手 17.2%

きょうだい 10.7%

子ども 6.5%



■ 毎月の収入と支出どちらが多い？



健康のこと

健康上の理由で寝込んだり、
普段の活動ができなかった日
が、最近1か月間であった？

なかった(健康だった)

79.8%



あった(健康でない日があった)

18.5%



健康のこと

最近1年間に病院や歯科等を
受診できなかった経験はあった？

受診できない経験があった

20.4%

受診できなかった理由は？(TOP3)

1位



お金がかかるから
66.7%

2位



時間がないから
45.8%

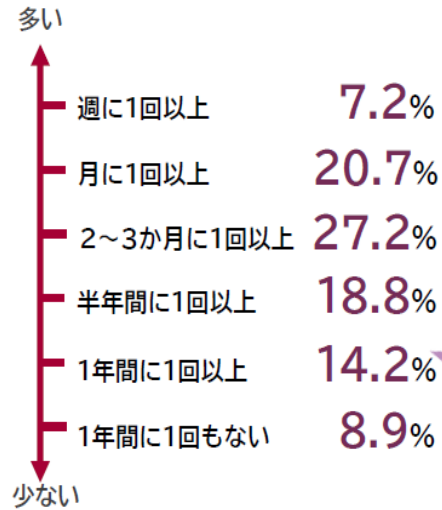
3位



どの病院やクリニックに行けば
いいかわからないから
17.1%

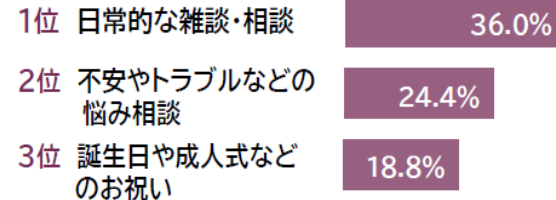
施設等とのつながりのこと

どのくらいの頻度で施設等と連絡をとっている？



退所から時間がたつほど、連絡回数が少なくなる傾向がありました

退所後に施設等から受けたサポート内容は？(TOP3)



サポートは受けてない 19.4%

退所後に施設等から受けたサポートはよかった？

